

# 宮崎市「事務事業の外部評価」 事業別対応方針シート

チーム名	第 1 チーム	担当課名	農政企画課
事業番号	1-12	事務事業名	みやざきブランド定着推進事業

対応方針	見 直 し
------	-------

判定結果に対する考え方、今後の方針等
<p style="text-align: center; font-size: 0.8em; margin-bottom: 10px;">※ ( )内の番号は、事業別判定結果シートの判定人からのコメント欄の番号に対応しています。</p> <p>(1) 宮崎市ブランドといっても、県外消費者から見れば、同じ「みやざき産」と認識されることが多い。しかしながら、農産物取引は、「市場」や「量販店」のバイヤー（購買者）と各JA間で行うので、産地間競争を勝ち抜くためのPR活動等の取組は不可欠である（県の取組は、小売店における「消費者向け」だが、本事業は、それに加え、取引の鍵を握る「初期の流通業者（市場、バイヤー等）」内でのファン拡大に狙いがある。）。(①・③)</p> <p>(2) 事業推進に当たっては、本市、国富町、JA宮崎中央及び生産者部会で組織する「みやざき中央農産物ファン拡大事業委員会」（事務局：JA）で事業内容等を十分協議している。また、行政・JA・生産者が三位一体となった、他地域に例のない取組を市場や量販店バイヤーも高く評価している。本事業により、JA系統の出荷物のみならず、同じ「みやざき産」である系統外農産物にも波及効果がある。今後、国富町とも連携し事業内容や効果を十分検証しながら、同事業委員会において改革改善の論議をしたい。(②・③)</p> <p>(3) 県との連携・役割分担を行うこととの指摘については、上記(1)と同様であるが、指摘の趣旨を踏まえ、連携効果が見込めるものについては、県が中心となって関係市町村・JAと組織する「みやざきブランド推進中部地域本部」（事務局：県）において、連携・協力や棲み分け等について協議したい。(④)</p> <p>(4) 本市で生産される農産物の知名度アップと所得向上による農家の経営安定を目指し、さらに効果的な事業のあり方について検討したい。(⑤)</p> <p>【改善内容】                  県が実施するフェアに積極的に参加するなど、県との連携を深めるとともに、新たな圏域（福岡、山陰など）の販路開拓、宮崎ゆかりの人材（在京市人会など）・影響力の大きい著名人・マスメディア等を活用したPR活動の展開などにより、更に事業効果のあがる取組をJA、生産者組織及び国富町とともに検討していく。</p>